

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

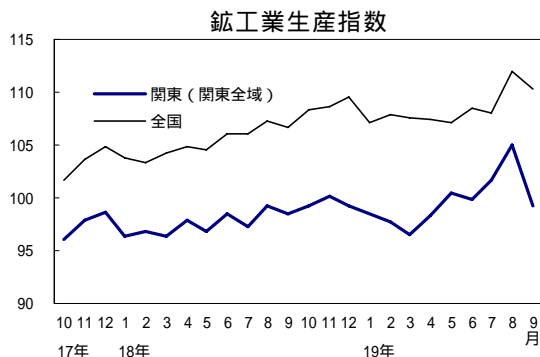
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 19 年 8 月)	今回 (平成 19 年 11 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
住宅建設	減少	大幅に減少	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、プレス用金型が不調であったものの、装輪式トラクターや印刷機械が好調であったため、増加している。化学は、ボディソープなどの身体洗浄剤に動きがみられたものの、フェノールなどの樹脂原料が振るわなかったため、おおむね横ばいとなっている。輸送機械は、北米、欧州を中心とした普通乗用車の需要が引き続き堅調であったため、増加している。情報通信機械は、外部記憶装置は振るわなかったものの、携帯電話の新規モデル受注が好調であったため、5四半期連続で増加している。電気機械は、猛暑の影響でセパレートエアコンが好調であったことから、増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成 19 年 9 月の関東は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

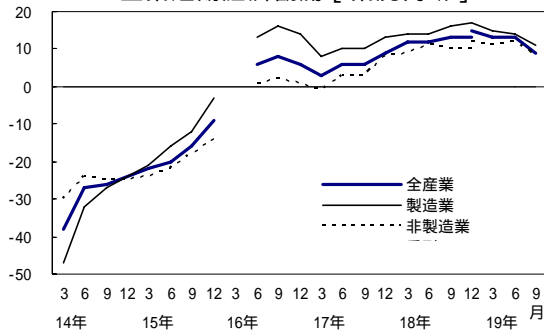
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	13.8	2.5	2.2	2.5	1.6
化学	13.7	5.7	0.0	1.0	1.7
輸送機械	11.3	1.2	6.4	4.8	5.3
情報通信機械	8.6	4.2	3.8	4.9	7.3
電気機械	7.9	1.0	4.3	2.4	1.0
鉱工業	100.0	1.9	2.5	1.7	0.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。  
3. 7~9月期の化学の生産、出荷は、7月、8月確報値の平均より算出。在庫は、8月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]

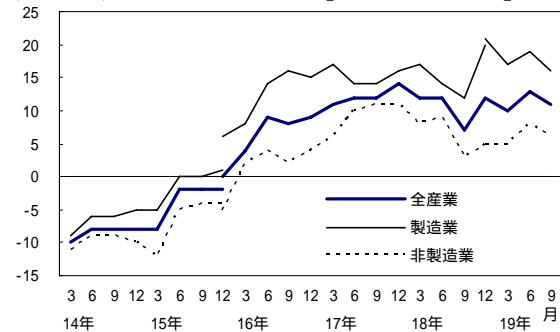


(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]

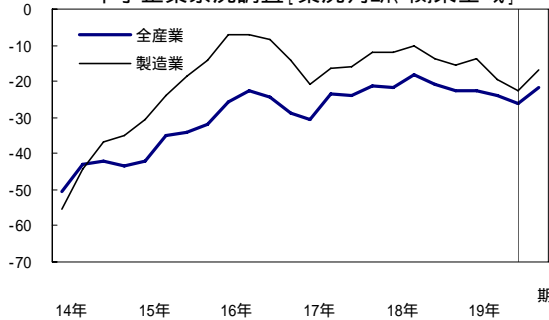


(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見直し。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「下半期が始まっているが、客の設備投資に対する意思決定が進まず、提案機会、概算見積提出等の件数が伸び悩み、受注件数が減少している(その他サービス[情報サービス])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

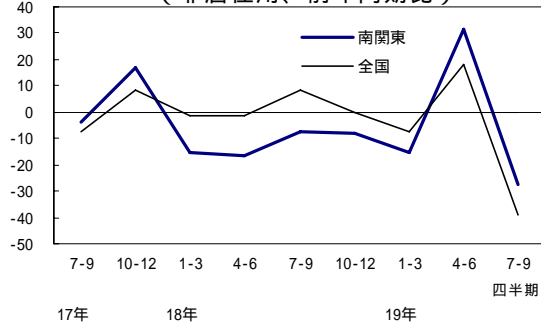
(前年度比、%)

	18年度実績	19年度概
全産業	8.8	9.9( 10.6)
製造業	14.0	15.9( 14.0)
非製造業	4.7	9.0( 0.9)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は緩やかに回復している。

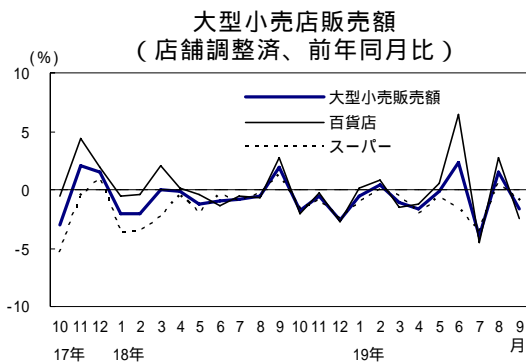
#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は天候不順により気温が低めに推移したことから、夏物衣料品が不調となり、前年を下回った。8月は記録的な猛暑により夏物衣料品が好調に推移し、水着等の盛夏物に加え、秋色夏素材と呼ばれる商品が好調だった。また、日傘、帽子、サングラス等の身の回り品やUVケア化粧品も好調で、前年を上回った。9月は残暑の影響で、秋物衣料品が伸び悩み前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の10月の売上高は前年同月比0.6%増となっている。

スーパーは、主力の飲食料品に動きが見られたものの、衣料品の動きが鈍かったことから、全体としては前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「気温の低下に伴い秋物の動きが徐々に見られるが、大きく伸びることはなく、厳しい状況は続いている。客の売上は堅調に推移している反面、流動客については取り込みが弱くなっている。同業他社で改装を行なった店舗については売上が伸びており、客が他店に流れている。おせちの受注を始めたが、人気商品については単価が高くても購買意欲は低下せず、お金を掛ける場面とそうではない場面がはっきりしている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

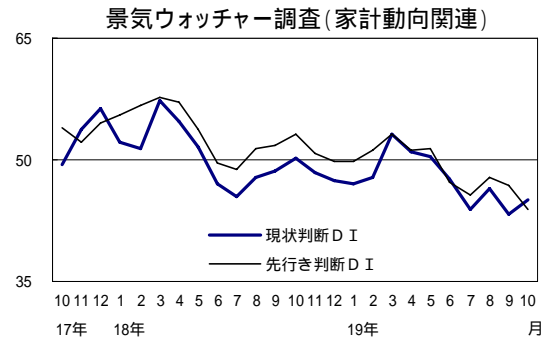
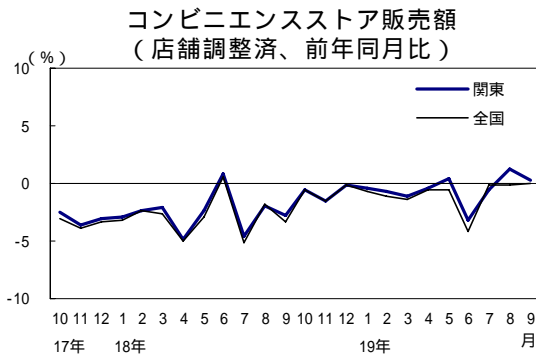


(前年同期比、%)

	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.8	0.4	0.2	1.6
百貨店	1.8	0.3	2.0	1.8
スーパー	1.7	0.6	1.5	1.3
コンビニ	0.7	0.7	1.1	0.3
景気ウォッチャー	48.7	49.4	49.6	44.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。19年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域。

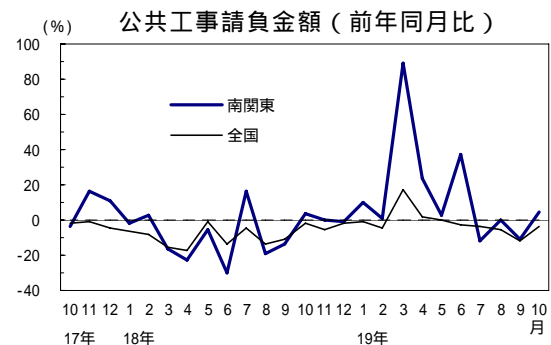
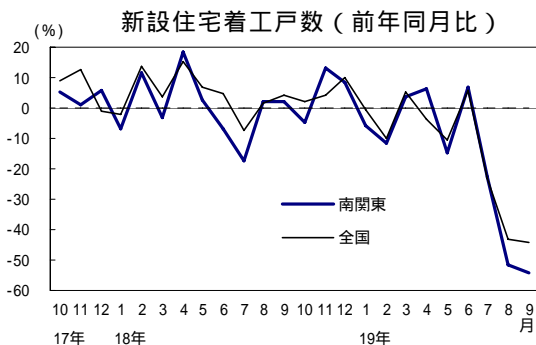
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



### (2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家、分譲が大幅に下回ったことから、全体では大幅に減少している。

### (3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を上回っている。

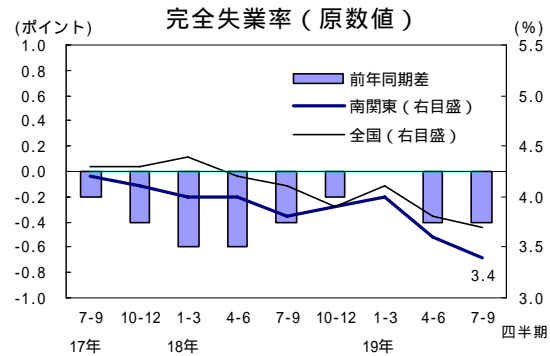
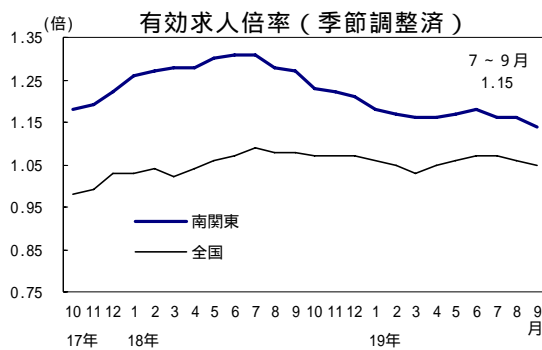


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

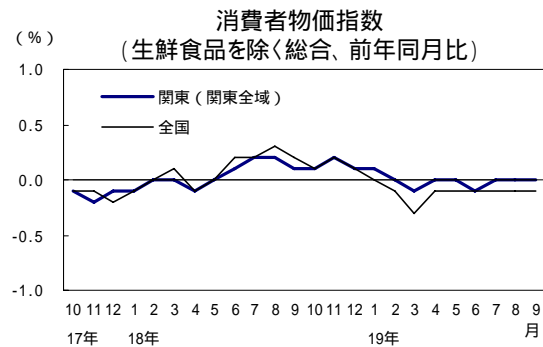
「派遣就業のために登録する人数が減っており、そのなかでも事務職の経験が無い人が事務職を希望する等、なかなかマッチしない（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加、負債総額も大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月	19年10月
倒産件数	976	1,003	982	1,015	355
(前年比)	3.4	4.5	9.4	14.7	10.9
負債総額	5,190	5,170	4,999	9,022	1,783
(前年比)	46.3	6.3	35.1	273.7	1.0



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・建築基準法の改正により確認申請業務が滞っており、いつまでたっても先へ進まず、現状維持が目一杯である（設計事務所）

<先行き>

・PCに弾みがつくと弱点がなくなる。AVはブルーレイレコーダーと50インチクラスの高画質大画面が期待できる。季節家電は昨年のような暖冬による低迷はないと見られ、デジタルカメラも一眼レフの新製品は市場の評価が非常に高い（家電量販店）。

景気ウォッチャー調査（合計）

